

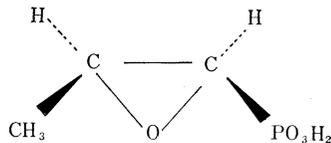
化膿性皮膚疾患にたいする Fosfomycin Capsule の使用経験

幸 田 弘
九州大学医学部皮膚科教室
(主任：占部治邦教授)

はじめに

Fosfomycin はきわめてユニークな化学構造をもつ新しい抗生物質で、ブドウ球菌、緑膿菌、変形菌、大腸菌などグラム陽性菌からグラム陰性菌まで、広い抗菌スペクトラムを有し、しかも毒性が低いのが特徴とされている。

われわれは2, 3の化膿性皮膚疾患にたいしてホスホマイシンを使用し、若干の成績をえたので報告する。



1-cis-1,2-epoxypropyl phosphonic acid

使用法

2~3g を成人日量とし、3~4回に分けて経口投与し

た。ホスホマイシンカプセルは1カプセル 500mg である。

効果判定

原則として治療開始後7日目をもって判定した。ただし3日目までに症状改善のきざしのみられないものは無効とし、治療を中止した。判定基準はつぎのとおりである。

著効：治癒あるいはほぼ治癒の状態となったもの

有効：症状の著明な改善のみられたもの

無効：症状の改善がきわめてわずかなもの、あるいはまったくみられなかったもの

臨床成績およびまとめ

個々の症例については Table 1 に一括した。すなわち癰1, 瘡5, 瘡症2, 感染性粉瘤1, 毛嚢炎5, 膿疱性座瘡6の計20例である。

臨床効果をまとめてみると、著効14, 有効3, 無効3で、有効率85%となった。病原菌を分離しえた症例

Table 1 Cases treated by fosfomycin

case No.	name	sex	age	diagnosis	dosage	effects	side effects	causative organisms	MIC ($\mu\text{g/ml}$)
1	I.	♀	58	carbuncle	4 cap. × 7 days	+	drug rash(?)		
2	T.	♀	23	furuncle	4 × 5	—	—	<i>Staph. aureus</i>	6.25
3	M.	♂	29	"	6 × 6	+	"	"	
4	S.	♂	20	"	6 × 3	+	"	<i>Peptostreptococcus</i>	
5	T.	♂	24	"	6 × 7	+	"	<i>Staph. aureus</i>	
6	Y.	♂	29	"	6 × 5	+	"	"	6.25
7	T.	♂	35	furunculosis	6 × 7	+	"	"	6.25
8	I.	♀	63	"	4 × 2	+	headache	"	
9	N.	♂	45	infectious atheroma	6 × 7	+	—	(Gram(+) anaerobiancoccus)	
10	N.	♀	37	folliculitis	6 × 7	+	"	<i>Staph. aureus</i>	6.25
11	M.	♂	36	"	4 × 14	+	"		
12	A.	♂	46	"	6 × 14	+	"	<i>Staph. epidermidis</i>	
13	T.	♂	27	"	4 × 4	+	"	<i>Staph. aureus</i>	
14	F.	♂	54	"	4 × 4	+	"	<i>Staph. epidermidis</i>	
15	F.	♀	24	pustular acne	4 × 7	+	"	"	
16	I.	♀	26	"	4 × 28	+	"	"	25.0
17	H.	♀	25	"	4 × 14	+	"	"	0.75
18	H.	♂	19	"	4 × 14	+	"	"	0.75
19	K.	♀	21	"	4 × 14	—	"	"	1.5
20	H.	♀	23	"	4 × 7	—	"	"	

Fig. 1 Case 3 : Furuncle before treatment

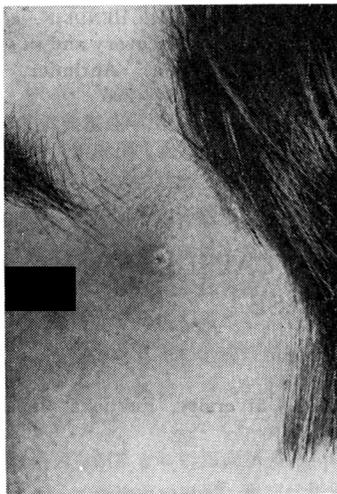


Fig. 2 5th day after treatment

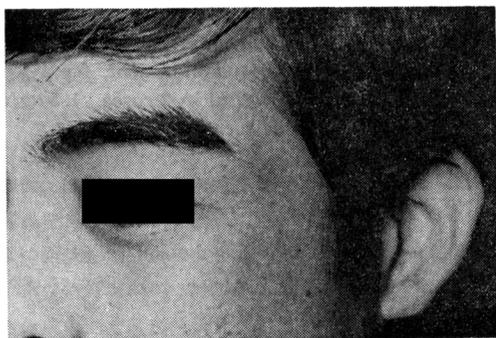
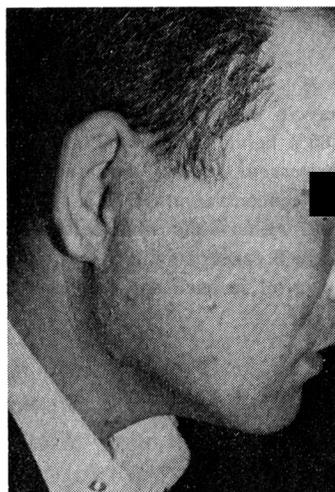


Fig. 3 Case 12 : Folliculitis before treatment



Fig. 4 10th day after treatment



について起因菌別にみると、黄色ブドウ球菌は8例で、癰あるいは癰症が6例、毛嚢炎2例で、ほとんどが深在性皮膚感染症である。このうち著効は6例、有効と無効が各1例で、有効率 88% となり、黄色ブドウ球菌感染症にたいしてすばらしい効果がみられた。表皮ブドウ球菌はすべて浅在性感染症で、毛嚢炎2例、膿疱性痤瘡6例の計8例である。著効5例、有効1例、無効2例で有効率 75% となり、黄色ブドウ球菌感染症群に比べるとやや劣る結果となった。しかし無効例の2剤はともに膿疱性痤瘡で、痤瘡では細菌以外の因子が重要な増悪因子となりうることを考慮する必要がある。その他、嫌気性菌症例が癰と感染性粉瘤の各1例あるが、いずれも著効の成績であった。

数例ではあるがホスホマイシン小委員会法によって測定したホスホマイシンの感受性試験の成績をまとめてみると、8例中黄色ブドウ球菌の4例はいずれも $6.25\mu\text{g/ml}$ 、表皮ブドウ球菌の4例は $0.75\mu\text{g/ml}$ 2例、 $1.5\mu\text{g/ml}$ と $25.0\mu\text{g/ml}$ が各1例となっている。ホスホマイシン

の MIC は全体的に高いことが、これまでの基礎実験でもわかっているが、ただ本剤は毒性がきわめて少いため安心して多量を投与できる利点がある。臨床効果もやや切れ味がわるいようにも思われるが、なんら禁忌もなく安心して使用できることは、臨床的には得難い抗生物質の1つといえよう。

さいごに副作用についてみると、本剤によるものと断定し難いが、2例に訴えがあった。1例は症例1の癰の患者で、内服開始後2日目から少しずつ全身のあちこちに痒性皮疹を生じてきた。皮疹の臨床像からは細菌疹の疑いも強いが、内服2日目から生じてきたこと、癰そのものは軽快してきたのに、皮疹は次第に増悪してきたことから、ホスホマイシンがこの皮疹発生になんらかの関係があったものと解釈したい。他の1例は頭痛を訴えたものであるが、内服中止によりすぐにおさまった。

む す び

化膿性皮膚疾患 20 例にホスホマイシンカプセルを使用し、有効率 85% の成績をえた。黄色ブドウ球菌症例

は癰6例, 毛嚢炎2例の計8例で, 1例をのぞいてすべて有効であった。MICは4例について測定したが, いずれも $6.25\mu\text{g/ml}$ であった。表皮ブドウ球菌を分離したものは, 毛嚢炎2例, 膿疱性痤瘡6例の計8例で, 2例が無効であった。MICは $0.75\mu\text{g/ml}$ 2例, $1.5\mu\text{g/ml}$ と $25.0\mu\text{g/ml}$ が各1例であった。副作用は2例にみられた。

(終りに御校閲を賜った占部治邦教授に深謝する)。

参考文献

1. STAPLEY, E. O., D. HENDLIN, *et al.*; Phosphonomycin. I. Discovery and *in vitro* biological characterization. *Antimicrob. Agents & Chemoth.* 1969, 284~290
2. 第22回日本化学療法学会総会新薬シンポジウム「Fosfomycinの評価」昭和49年6月(於東京)

CLINICAL EFFECT OF FOSFOMYCIN CAPSULE ON INFECTIOUS SKIN DISEASE

HIROMU KŌDA

Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Kyushu University, Fukuoka, Japan
(Director: Prof. H. URABE)

Fosfomycin was used orally in the treatment of 20 cases of suppurative skin infections, the efficacy rate of 85% being obtained. Eight cases consisting of 6 with furuncle and 2 with folliculitis were due to *Staphylococcus aureus*. Satisfactory results were obtained in all cases except one case. Minimum inhibitory concentrations (MIC) against the organisms in 4 cases were $6.25\mu\text{g/ml}$ in any case. *Staphylococcus epidermidis* was isolated from 2 cases with folliculitis, 6 with pustular acne for a total of 8 cases, 2 cases showing poor effect. MICs for the organism were $0.75\mu\text{g/ml}$ in 2 cases, $1.5\mu\text{g/ml}$ and $25.0\mu\text{g/ml}$ in each one case respectively. Side effects were observed in 2 cases.